



合格しなかったら、 正しく自分を愛せよう！

●この号が着くころはすでに入試は始まっている。高三生は共通テスト、中三生は私立入試。初めての入試できちんと対処できた人がいる一方で、自分の勉強不足を思い知った人、頭が真っ白になって力を発揮できなかった人も少なくないはずだ。いずれにしても入試はまだ始まったばかり。これからまだまだ点は伸ばせる。一回目の入試がうまくいった人も含めてきちんと振り返り、次にそなえてほしい。だからきついことを書くぞ。

●あがってしまった力が発揮できません

面接のたびにこういう悩みを打ち明ける人がかなりいる。でも、本気ではないから大半は自分を愛えない。結果、同じことをくり返す。一方で、真剣な人は自分を変えようと努力する。高校生には、本番に向けての自分作りプリントを渡しているが、真剣な人はとり組み方がちがう。「毎日読む。自分に必要な文言を暗唱する。頭が真っ白になることを想定して脱出法を練習する」そして、テストにきちんと向き合える自分を作っていく。

●さて、あがってしまうあなた。実は前号の裏面に必要なことはほぼ全て書いたのだが、読んでいますか？一度ではダメです。何度も何度も

読んで暗記するまで読んで、当日実行できるようにする。これが唯一の解決策です。

●英文を読んでも内容が頭に入ってきてきません

「しつかり読め」とか、「きちんと読め」とかはいったことがない。因みに「落ち着け」とか「時間配分に気をつけろ」といったこともない。代わりに「落ち着き方」を教えるし、「時間が足りない原因の分析と解決策」を提示する。同じように、英文を読んでも内容が頭に入っていない生徒にも、その原因の分析と解決策が必要だ。単語を覚えていないとか、高校生では構文をやっていないとかは論外だが、中高生の生徒の多くは志望校に合格するために必要な一定の学力と知識は身につけているはず。では何故頭に入っていないのか？それは「読む」ことを教わっていないからである。「読む」とは「語句のかたまりを見てその〇・一秒後に訳す」という行為で「見る・訳すの二人三脚」なのだ。しかし、これを分かっている生徒が多い。「急ごう。速く読もう」とする余り語句だけを目で追って訳す作業がなされていない。これでは内容が頭に入るはずはない。因みに英語を英語のまま偏差値が九〇を超えないと出来ないと思った方がよい。(それでも難しい英文は立ち止まって日本語の力を借りるのだけでも……)



●最後に、私が「訳す」ことで救われた話をしておく。中三になって模試で英語が取れなくなった。六〇点くらい。不安を抱えたまま高校入

試の当日。同じ中学から一〇人ほど受験するが、引率の先生がついていくという伝統だった。その先生から事前注意をうけているとき、一人の男性が近づいてきた。志望校の教師だった。「きみたちは〇〇中学か？私も〇〇中だ」「いいか、今日の英語でアドバイスをする。英文は全て訳せ」私はびつくりして質問した。「いつも時間が足りません。訳したら終わりませんよ。大丈夫ですか？」「キミは教科書の英文はおぼえたか？」「はい、大体は……」「大丈夫だ。全部訳せ。時間は余る。点は上がる。」その自信たっぷりの言葉を信じてかけてみた。奇蹟がおきた。一五分余り満点。急ごうとして文字だけ見ていた自分が読むことを知った日だった。塾など田舎にはなかった時代のことである。(小林)

意志あるという人と、道は開ける

「あのととき本気になれた自分がいるから、今でも頑張れます。」

そう笑顔で話してくれる卒業生。

創学舎ニュースで彼女について紹介するのは今回で二回目になる。彼女が高校受験を終えた年の二〇一六年の十一月ぶりだから、月日が流れるのは本当に早い。大学生になった今でも頑張っていることが何よりも嬉しい。

彼女は看護師であるお母さんに憧れて、看護師になるという夢を小さい頃からずっと追いかけていた。

彼女は中学を卒業してからも時折教室に顔を

出してきていた。大学の看護学科に入学が決まったときも、成人式のときも。また、電車で会うことも何度もあった。

「看護学科って実習やら国家試験やら大変って聞けど、どうなの？」

「大変ですよ……。でも大変なときって『大きく『変』わるときですよ！それに高校受験のときの方がもっと辛かったから、今も頑張れます。』」

努力を積み重ねて、自分を支える最高の思い出を作ること。それが青春のいいところなのかもしれない。高校受験が終わった後に彼女は手紙をくれた。

「最後まであきらめずに戦えました。それにやつと自分に少しだけ自信が持てるようになりました。受験があつて本当によかったです！」

「先生ももつと自分のことをほめてください！いつも人のことばかりで無理して笑ってるだけじゃ、先生自身がかわいそうです！」なんてことも書いてくれる心優しい子だ。

夢中になっていた時の思い出は鮮やかであると感じることがあるが、彼女の受験生の時の記憶が鮮明に蘇る。

~~~~~

中二の冬期講習のときに入塾してから高校受験まで紆余曲折あった。何としても行きたい志望校に合格するためには、偏差値で二〇以上あげないといけない。模試の結果が返ってくる度に彼女が涙を流している姿を何度も何度も見た。



彼女には座右の銘があった。  
【意志あるところに、道は開ける】

くじけた時に何度も何度も彼女の背中を押してくれた言葉だ。それでも第一志望の合格までは遠く届かない。当時の千葉県公立入試は「前期入試」と「後期入試」があった。ダメ元で受けた千葉県の前期入試の日。自己採点をした。入塾したときよりも確実に実力はついている。でも合格点まで百点以上も足りなかった。さすがに現実を見なければいけない時だ。落胆しきつている彼女の背中を見送ったあの夜の光景は今でも忘れられない。

それでも次の日、彼女は言った。  
「ダメでも後期も受ける！」

昨日の塾の帰り道。お父さんに言われたそう。だ。「今こそ自分の意志が試されている時だと思わないか？」と。

それから後期入試までの約二〇日間。自分の意志が弱かったと感じたから、今まで以上に本気になって動き出した。

後期入試の英語の試験本番中。彼女は泣いてしまったそうだ。過去問でも対話文の問題は自信を持って確実に全問正解できるように訓練していたのだが、その年の問題でどうしても解けない問題があった。

「合格できなくても、英語だけは結果を出して、先生に恩返しをするって決めてたのに」と、自己採点をしながら彼女は泣いた。自分のためだけではない。彼女はずっと「誰かのために」努力していた。応援してくれている家族、親友、

そして私たち講師のためにも。だから、こんなにも強い意志を持っているのか。

そして、後期入試の発表の日。合格掲示板に、彼女の受験番号があった。

無謀なチャレンジだとしても、本気で取り組めば何とかなる、と伝えたいわけではない。(むしろ自分の強みの上に戦略を立てることも大切だと思う。)「これから先の人生において、「一カ月だけでも本気になれた自分がいた」と胸を張って過ごすことができるか、「一カ月も頑張れなかった自分」を背負っていくのかの違いは大きい。十代のまさに青春の真っ只中で、短期間でも本気で取り組めた何かがあるか否かは、その後の人生を大きく左右するのではないか。「今の自分の本気の取り組みは、時間と距離を飛び越えて、未来の自分自身に向かっていく。そして、未来の自分自身を勇気づける」ということを、彼女は教えてくれた。

歴史に「もしも」はないが、もしも彼女が志望校に合格できなかったとしても、本気で取り組めた自信は、彼女の一生の財産になっていたことには変わりないと信じている。

本気で取り組めるのは、何も受験生だけの特権ではない。英語が苦手な中一の生徒が、何度も何度も英文を音読している姿。定期テスト前に自習室に入り浸っている生徒たち。全国大会の部活の練習と塾の宿題を両立させている生徒や、百マス計算に没入している小学生も。感じたら動く。その先の「感動」の物語が目の前の一人ひとりにある。そんな日常も私にとっては

とても幸せに感じる。

「都内の病院で看護師に決まりました！」  
今年春から、念願の看護師デビューだ。そんな春から、念願の看護師デビューだ。そんな春から、念願の看護師デビューだ。そんな春から、念願の看護師デビューだ。



他人を思いやることのできる心優しい彼女のことだから、きっと目の前の人に、心から寄り添える素敵な看護師になることだろう。颯爽と電車を降りていく彼女に手を振ったときの夕焼けがまぶしかった。(樫村)

### 入試に強くなる心の作り方

- 大学入試で三日連続白紙答案の人が立教合格。駆け込んできたのは立教の入試の前日。まあよく泣いた。涙がかれるほど泣かせて、気持ちの整理をさせた。
- 第十一志望だけ受かって、そのあと九連敗の人が第一志望の早稲田合格。彼女も気持ちの整理を徹底してやった。
- 「もうダメ！絶対落ちた！どうしよう……！」と大泣きの生徒が、次の日慶応を受験して合格。電話口でここまで泣けるのかと思うほど泣いた。授業直前にうけた電話で、とりあえずの指示だけして、授業後十時から再び電話で対応し、翌日の作戦を授けた。
- こんな例がいくつも。ここまで極端では

なくても、受験生であれば、それぞれに不安や絶望や無力感を何度となく味わっているはず。でも受験から逃げることはしたくない。どうすればいいのか？

● 自分の気持ちをしっかり分析することだ。分析すればどうしたらいいか見えてくる。ただ、過去に経験のないことだから、「やれ」と言われてもなかなかうまくいかない。そこで、ささやかなお手伝い。よく読みなさい。

① 不安で勉強できないというキミは本当にそれでいいのか？ そんな過ごしかたをするためにこの一年を過ごしてきたのか？ よく考えろ。

② 不安で勉強できないというキミが本当に望んでいることは何か？ キミはもう忘れてしまっている。全力を出して合格することではないのか？ 毎日全力を出して合格すると十回唱えろ。

③ キミの不安は全て想像だ。不安に思うことは正しいが、それをひきずるのは自分の願望を裏切ることだ。

- 〈1〉 間に合わなかったらどうしよう。
- 〈2〉 伸びない気がする。
- 〈3〉 受かる気がしない。
- 〈4〉 落ちたらどうしよう。

● こう思うのは正しい。でも、それにひきずられて毎日を過ごせば、不安はどんどん大きくなり、そこにきちんと勉強していない自分へ自己嫌悪が加わりもつと状態は悪くなる。といって、不安は消すことはできない。不安は持ったまま、合格の可能性が少しでも大きくなるよう行動するのだ。



(小林)